

会 議 録	
会 議 名	平成 27 年度第 3 回丸亀市男女共同参画審議会
開催日時	平成 28 年 3 月 22 日 (火) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
開催場所	生涯学習センター 5 階 男女共同参画推進ゆめ
出席者	<p>出席委員</p> <p>遠城寛子 岡本恵子 佐藤友光子 杉尾英美 十河靖典  中島久美子 中野実千代 中橋恵美子 日高幸子 福岡由紀子  松岡繁 溝渕由美子 三村芳輝 三好守</p> <p>欠席委員</p> <p>近澤亨 奈良忠雄</p> <p>説明のため出席した者</p> <p>総務部長 横田拓也  総務部人権課長 寺嶋寛  人権課男女共同参画室長 谷本智子  人権課男女共同参画室 糸川裕子</p>
協議案件	第 2 次男女共同参画プランの推進状況について
報 告	次期男女共同参画プラン策定ワーキンググループ会議について
傍 聴 者	なし
議事の経過 及 び 発言要旨	<p>— 開会 午後 6 時 30 分 —</p> <p>あいさつ</p> <p>横田部長</p> <p>こんばんは。本日は年度末が近づいており、皆様におかれてはご多忙の中、ご参加をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>市政の報告をさせていただくと、2月 22 日に開会し、1ヶ月にわたって審議をいただいていた 3 月定例会もいよいよ明日が最終日となった。今回提案させていただいた新年度予算、条例議案などについて、明日承認されたら、平成 27 年度事業の仕上げとともに新年度事業に向けた本格的な準備作業が始まる。新年度から完全施行される女性活躍推進法に合わせて、丸亀市役所も特定事業主としての行動計画策定・公表について、明日議会に説明をさせていただく予定である。</p> <p>さて、前回の審議会では、皆様に委嘱状の交付とともに次期プランについての諮問をさせていただいた。本日の審議会では、現行プランの進捗状況を諮り、次期プランのワーキンググループ会議についての報告をさせていただくけれども、皆様の忌憚のないご意見をいただき、さらなる男女共同参画の推進にお力添えいただくようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。本日はどうも感謝申し上げます。</p>

<p>岡本会長</p>	<p>第2次プランの79ページに平成11年に制定された男女共同参画社会基本法が掲載されている。男女共同参画社会基本法の前文には、「男女共同参画社会の実現は緊要な課題となっている。」「男女共同参画社会の実現を21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置付け、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図っていくことが重要である。」と書かれている。緊要な課題ということで、とても重要で差し迫っているという記述になっている。丸亀市においては合併前であるが、平成11年に男女共同参画都市宣言をしており、男女共同参画社会基本法制定以前から取り組みを進めている。20年を超えて長く取り組んできているけれども、実際、従来型の社会構造や社会慣行のようなものが壁となり、男女共同参画社会が実現できているとは言いがたい状況である。今ヒアリングでいろいろなところをまわらせていただいていると「難しい課題であるので、ぼちぼち進めていこう」という声もあったが、もう男女共同参画社会基本法ができて17年も経つので「ちょっとずつとか言っている場合じゃない」という状況である。去年の8月に女性活躍推進法ができ、国も成長戦略の中核に女性活躍を位置付けて強力に推進していこうとしている。そのような機運の情勢としてはこれまでにない盛り上がりであるときに、本市では次期プランを策定する時期を迎えているので、これをチャンスに男女共同参画社会づくりをどんと進めていかなければならないと考えている。</p> <p>本日は、皆様から忌憚のないご意見、お考えを聞かせていただけたらと考えている。よろしくお願ひ申し上げます。</p> <p><b>本審議会の成立確認</b></p>
<p>事務局（糸川）</p>	<p>本日は近澤委員、奈良委員から都合により欠席の連絡を受けている。よって本審議会委員16人の内14人が出席し、丸亀市附属機関設置条例による「過半数以上出席」を満たしているので、この会議が成立していることを報告する。また、この会議は「丸亀市附属機関会議公開条例」により、原則公開となっている。議事録もホームページで公開する。議事録については要点筆記で行い、会長、副会長に内容を確認していただく。発言については委員の名前を記載し、公開する。</p> <p>前回欠席されていた佐藤委員と溝渕委員は、今回初めての審議会であるので自己紹介をお願いしたい。</p> <p><b>委員(自己紹介)</b></p>

佐藤委員		<p>四国学院大学社会学部の佐藤です。専門は、家族社会学や地域社会学である。皆様と一緒に大いに勉強していきたい。</p>
溝渕委員		<p>ゆめネットワークから来た溝渕由美子です。ゆめネットワークは、平成12年5月に成立した、市内のいろいろな市民グループのネットワークである。私は最初から参加していて、15年くらい市の男女共同参画に関わって勉強してきた。条例策定や現行プラン策定にも関わらせていただいた。これから市のほうから説明があると思うが、現行プランは進行管理が非常に大変なプランだと思う。勉強させていただきたい。</p>
事務局（糸川）		<p>これより議事に移る。ここからの進行は岡本会長にお願いする。</p>
		<p><b>議事</b></p>
岡本会長		<p>議事1、第2次男女共同参画プランの推進状況について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局（谷本）		<p>資料1～3について説明。資料4、5はアンケートの報告書となっているので、またご覧いただきたい。</p>
岡本会長		<p>ここまででご意見、質問は。資料1は、過去5年間の取り組みについて、これまでやってきたことと、次期プランにどうやって引き継ぐか、これは課題だということ把握しながらのまとめになっている。今の庁舎には、女性相談のためのスペースが十分取れていないという問題がある。今新庁舎建設の進捗状況はどうか。</p>
横田部長		<p>場所は決まった。今ある市民会館と警察跡地、旧消防庁舎の敷地に新庁舎を建設する。市庁舎等整備審議会からは、市民活動交流センターとしての機能も付加した複合施設とする基本構想の答申をいただいた。スケジュール的には、今から基本計画、実施設計と具体的な作業に入るが、今の構想の中では平成32年度までの完成を目標としている。財政的な問題などはあるが、できる限り前倒しをしていこうというスタンスであるので、遅くても平成32年度までには完成したい。</p>
岡本会長		<p>今から設計に入るわけであるから「こんなことが必要だ、こんなところが足りていない」という意見は、これから各課からどんどん言っていくのか。</p>

	横田部長	<p>今から具体的なスペースの把握と、市民の皆様からもワークショップという形でご意見をいただきながら、最終案としての基本計画を策定していく予定である。</p>
	岡本会長	<p>今現在、必要だけれどもスペースが取れていないところは、当然取り入れていただきたい。4月から新庁舎建設についての担当課は変わるのか。</p>
	横田部長	<p>今までは総務部の私のほうで担当していたが、今からは技術的な話も出てくるので、都市計画部門に移る。</p>
	岡本会長	<p>今現在、部長が担当しているのだから、引継ぎのときにはこういうところが必要という意見は当然伝えていただきたい。</p> <p>ほかに気になるところはあるか。数値目標に関しては、“男女共同参画”や“ジェンダー”などという用語をよく知らないという割合は上がっているが「男は仕事、女は家庭」という考え方には賛成できないという人が増えている。“男女共同参画”や“ジェンダー”という言葉を知らなくても、実質的に男女共同参画社会になっていけばいいので、“男女共同参画”なんて言わなくてもあたりまえに男女が参画できるような社会であればいいと思う。</p>
	三好副会長	<p>1つ教えてもらいたい。「事業番号 38 男女のワーク・ライフ・バランスの推進、市民活動への参画の啓発」について、ボランティア休暇の啓発、市におけるボランティア休暇の導入が現行の第2次プランに入っているが、それについての実績が見えてきていない。今年地域担当職員制度を作っていたいて、地域活動が非常にやりやすくなっている。これに加えて市職員にボランティア活動を啓発し、ボランティア活動を行う人が増えてほしいという希望を持っているので、職員課はどんな啓発をしているのか教えていただきたい。</p>
	事務局（谷本）	<p>ボランティア活動に関しては、啓発ができていない。職員には「地域の地域活動には積極的に参加しましょう」と働きかけはしているが、それ以上のこととなるとなかなかできていないのが現状である。</p>
	三好副会長	<p>防災等いろいろな面で、ボランティアの必要性は高まってきているので、次期プランにはボランティア活動の啓発を入れていただきたいという希望がある。</p>

岡本会長		この第2次プランでも職員に対する啓発を行うという意味で職員課が担当課に入っている。
事務局（谷本）		残業を減らすことやワーク・ライフ・バランスの推進は啓発しているが、ボランティアに関しては、コミュニティ活動以外はなかなか積極的に啓発できていないと思う。
三好副会長		「目標8 地域・防災・環境、その他の分野における男女共同参画の推進」の「事業番号54 ボランティア団体など市民活動団体への支援」について、これも非常に大切な取り組みだと思う。丸亀市ボランティア協議会という組織がなくなってしまって、現在はそのメンバーがばらばらになっているという状況だと思うので、ボランティアの活動のあり方も考えていただきたい。
岡本会長		担当課がなぜ自分の課が担当になっているのか、理解できていないのだと思う。
日高委員		各課が男女共同参画という概念をしっかりと理解をし、自分が担当する仕事の中で、推進していこうというものを見つけ出すのは非常に難しいと思う。相当勉強して考えていかないといけない。だから私は、男女共同参画室と一緒に事業一つひとつを見ていくことも必要だと思う。それと資料2の「事業番号2 男女共同参画の視点にたった国際規範・基準の周知徹底」とは、具体的にどのような内容を考えているのか。
事務局（谷本）		我が国の男女共同参画推進は、国際的な影響を大きく受けているので、そのような世界の動きに関連することである。
日高委員		<p>私は世界的な動きに非常に興味があるので、もっとアピールしていただきたい。世界の先進国の中で、日本はあまり男女共同参画が進んでいないという現状を知るとは、とても刺激になると思う。人間はだれしも「負けたくない、もっとがんばらなくては」という気持ちを持っていると思うので、一つの動機付けにならないかと思った。例えば“オリンピックまであと〇日”というような目標とする数字を常に目にすることがあっていいと思った。男女共同参画週間に併せて、毎年必ず同じ目標数値と実績を掲示するとか、目にしてがんばれるという目標を一つ立てたらどうかと思う。</p> <p>それと私が自治会長をしたとき、自治会の名簿には、世帯主の名前がずらっと出てきた。私の場合は、私が主に自治会活動をするので、夫で</p>

		<p>はなく、私の名前を出した。実際、自治会で総会をすると、ほとんど女性が出席している。資料2の事業番号31にも「自治会の会長は、実際に活動している方がなることが自然であると助言している」と書かれているが、それでも周知徹底ができていないと感じる。地域のことを市の職員が理解し、情報を収集するというのは非常に難しいと思う。</p>
	松岡委員	<p>関連して、婦人会と母子愛育班の名簿を出してもらうときに、婦人会はやっぱり女性の名前を書かないといけないと思うが、母子愛育班は男性の名前を書いてもいいのか。</p>
	中野委員	<p>男性の名前でもかまわない。</p>
	松岡委員	<p>田舎のほうでは、やっぱり女性でなければいけないという意識がある。</p>
	中野委員	<p>母子というネーミングがついているから男性からすごく抵抗があると言われているが、今は母子愛育班といっても、地域に暮らす人たちの健康を考えて、男女関係なく活動している。</p>
	松岡委員	<p>母子愛育班の総会のようなときに、男性でもよいということも含めて周知していくことがやっぱり大事だと思う。</p>
	中野委員	<p>それでは連絡協議会で班長にそのように声かけをしたい。</p>
	中島委員	<p>母子愛育班というネーミングは勝手には変えられないのか。</p>
	中野委員	<p>私は城北地区であるが、城北愛育班は、男性も活動に参加しやすい形にしたかどうかということで、規約改正で母子を外した。</p>
	中島委員	<p>ネーミングの母子を外す取り組みを市全域に広げることは可能か。</p>
	中野委員	<p>それぞれの地域の班で考えていただければと思う。現在岡田の愛育班が母子を外す方向で動いている。本島も母子を外している。徐々に子どもが少なくなっているので、母子の支援もしていくが、母子だけを対象にしているはいけない。これからは地域の皆さんの健康を考えて、男性も女性も一緒に活動をしていこうと考えている。</p>
	中島委員	<p>何十年も前に、全国的に「交通安全母の会」というものができた。幼稚園のPTAの母親部会のときに「香川県だけ設立しないわけにはいけ</p>

		<p>ない。とにかく名前を書いてほしい」と言われて、丸亀市交通安全母の会ができたことを覚えている。いまだに母の会として活動しているが、子どもの交通安全は、みんなで考えないといけないので、母というネーミングをつけなくてもいいのではないか。このようにみんなで子どもを育てていくのにふさわしいネーミングに直していくという活動もいいと思った。</p> <p>それと、資料2を見たときに、市民活動推進課の結果がほとんど見られない。結果が出ているというのは、自治会長の選出のときに「世帯主でなくても自治会活動を主立ってしている方が女性であればその方が会長になることが自然である」と助言をしているぐらいである。男女共同参画についてほとんど努力した形跡が出てきてないのはなぜか。</p> <p>コミュニティを担当しているのが市民活動推進課であるが、市民活動推進課の考え方として、地域の独自性を活かすため、極力支援はするけれども、コミュニティ活動そのものにはあまり口を出さないというスタンスである。そのため市民活動推進課としては、男女共同参画の推進をもっと働きかけていくことはやりにくいということだった。担当課が動かないのをそのまま放っておくのは男女共同参画室としてよくないと改めて思った。こちらから「こんな形があるけれども、そちらの持っているツールを使って広げていってもらえないか」とそういった働きかけの仕方が今からは必要かと改めて思っている。</p> <p>資料2の「事業番号21 市役所女性職員・女性教職員の人材育成」のところで、女性活躍推進プログラムというのはどういうものか。</p> <p>職員課が、職員に管理職になりたいか、管理職がなかなか増えないのはなぜか等のアンケートをとった。その結果をふまえた女性活躍推進のための支援計画がある。それをもとに今度の女性活躍推進法に基づく行動計画も作っていく予定である。</p> <p>職員として必要な研修はあると思うが、もう少し受身ではなく「私は今こんな仕事をしているのでこんな研修が必要だ」ということを職員自らが探し、もしくは職員課と相談できるような積極的な研修はあるのか。</p> <p>各課にそれぞれ研修の案内は来ていると思うが、市町村アカデミーなどの研修も職員課経由で関係各課に投げかけてもいる。長い間研修に行っていないという人がいれば、投げかけて行ってもらおうというのが現状だと思う。</p>
	事務局（谷本）	
	日高委員	
	事務局（谷本）	
	日高委員	
	事務局（谷本）	

日高委員		<p>以前のやり方のままである。それに加えて自分でもっと積極的に研修の機会を確保していただきたい。学びたいときにはもっと積極的に学べる環境を作ってあげてほしい。これは希望としてお願いしたい。</p>
三好副会長		<p>同じである。</p>
横田部長		<p>職員に対する研修メニューの紹介は、以前より格段に増えた。情報提供はしているが、やっぱり現実問題として、自分の業務との兼ね合い等がある中でその研修に参加するのはまだ少し難しいのかもしれない。</p>
三好副会長		<p>だからこそ、その手段をちょっと工夫していただきたい。</p>
横田部長		<p>研修に参加しにくいのは、いろいろな要因がある。例えば人員不足であったり、一人に仕事集中していたり。総合的な見直しをしていく中でないとなかなか難しい。</p>
日高委員		<p>人材発掘と言っているのだから、もっと研修機会を増やして、学びたい人、もっとがんばりたいと思っている人を発掘し、引き上げてほしい。例えば政策的なことは男性の仕事と決めてしまうのではなく、男女関係なく聞き入れてあげられるような受け皿を積極的に作っていただきたいという希望である。</p>
中橋委員		<p>私は以前からお伝えしているように、丸亀市の現行プランは、本当に他所にない積み上げ方で作られていると思う。政策を決めている人に男性が多いのであれば、男性のコンセンサスが得られやすいアプローチの仕方があると思う。男女共同参画の切り口だけではなく、今で言うところのたぶん地方創生である。丸亀市がどうやったら生き残れるのかを長期スパンで考えたとき、「一言で言い表すなら、これ」というものがほしい。例えばこれから10年後、自分の親の介護で50代、40代の方が仕事を辞めないといけないということが起きる。そのときに「丸亀市は介護をしながら仕事を続けることができる」とか、目先でいうと「子どもが生まれても仕事を辞めずに続けることが必ずできる」とか、全国に先駆けてはっきり明確に言ってはどうか。「男女共同参画の切り口で私たちはこれに取り組んでいる」と一言で命題を出してほしい。例えば移住を呼びかけるときでも、「子育てしている人はみんな丸亀に来てください、絶対働きながら子育てをすることができます、全身全霊でそこはサポートします」というような、何か突破口となるものを作ることが、もしかすると近道</p>

		<p>かもしれない。</p> <p>そうすることで、他の小さな施策も進めることができるのではないかと考えた。というのは、現行プランは施策があまり細かく分類されすぎている。平成29年度からの5年間は、丸亀市で絶対にこの数値目標は達成させるという強化ポイントを作って、しっかりと予算をつぎ込み、そこを牽引役として男女共同参画を進めるという戦略の立て方をしてほしい。</p> <p>丸亀市の男女共同参画は、他所と比べてもよくなってきていると思うが、さらにエンジンをかけて何かしていくのであれば、今までの戦略だけでなく、新しい戦略と二刀流でやっていくほうがよい。今までを否定するわけではなく、今までのものもコツコツと組み組みながら、強化ポイントを作ることも一つかと思う。そのためには人口減少対策の切り口であるとか、地方創生の切り口であるとか、移住促進というようなキーワードを取り入れるほうが庁内のコンセンサスを得られやすいと思う。例えば、丸亀市は今、婚活事業に力を入れている。婚活の事業をするのはなぜかという少子化対策のためである。婚活のときにも男女共同参画のアプローチを一緒にするべきである。</p> <p>今の意見に全面的に同意する。よく一人ひとりの意識改革が必要だと言われるが、一人ひとりに意識改革を促していくのはとても大変である。複雑に絡み合った要因のもとに一人ひとりの意識は変わっていくので、それを待っていると、とても時間がかかる。資料を見ると少しずつでも進歩しているというのは感じるが、同時にそんな悠長なことを言っている場合じゃないとも思う。一つは突破口かなと感じる。このアンケートの結果を見ても、意識が変わる手前まできているのではないかと思う。例えば何か一つトピックを決めて、それに関する数字の看板を市役所に立て、その数字が上がったか下がったかを示す、そういう形でアピールしてみてもどうか。</p> <p>丸亀市は「丸亀市人口ビジョン・丸亀市未来を築く総合戦略」の人口減少に挑むための基本施策のトップに「ワーク・ライフ・バランスの推進」を掲げている。そことリンクさせれば市役所全体の理解も得られやすいかと思う。</p> <p>市役所のロビーの受付に「丸亀市の人口」というものが掲示されているが、今の掲示の仕方では、人口の増減が分からない。その横に去年と同時期の人口とか、いわゆる生産年齢人口、年少人口、老年人口を示すと丸亀市は子どもが少ないという感覚が持てるのではないか。人口減少</p>
	佐藤委員	
	事務局（谷本）	
	岡本会長	

		<p>というのはただ人が減っていくのが問題ではなく、子どもが増えないというのが問題である。あのような統計はどこが担当しているのか。</p> <p>横田部長 統計自体は行政管理課だが、表示の装置となると公共施設管理課の施設担当となる。</p> <p>岡本会長 丸亀市の人口減少に歯止めをかけるのが今の戦略だとすれば、そういうところで何かできないか。</p> <p>中橋委員 肝心要の生産年齢人口といわれている若い人たちは、用事がないので、めったなことで市役所に行かない。さきほど資料1の中でも若い人への普及啓発がもっと必要だという話があったけれども、今までどおりのアプローチではいけない。若い人への周知と言えばSNSの発信だと思うが、SNSもツイッターからフェイスブック、インスタグラムとすごく変わってきている。ずっと追いかける必要はないにしても、若い人たちにアプローチしたいのであれば、そういう方法も必要かもしれない。高松市では、市役所全体のフェイスブックページだけではなく、各課でページを作って競争させるように促していて、「若い人がどういうツールに反応するか、とにかく全部やってみよう」という姿勢である。丸亀市もフェイスブックページがあるが市全体で一つなので、そういう取り組みをやってみてはどうか。旧来どおりに市役所の掲示を変えたらいいというのは古い発想でしかない。これから意識を変えなくてはいけないのはこれからの若い人であり、若い人がどういう思考をしているのかを考えないといけないと思う。</p> <p>岡本会長 ここ1ヶ月くらい企業やコミュニティにヒアリングに行かせていただいている。その中で感じるのが、若い世代の意識はかなり変わってきているということである。子どもの入学式や病気のときに半日休むなど、若い人たちはワーク・ライフ・バランスをあたりまえのようにやっている。企業で話を伺うのはやっぱりご年配の管理職の方であるが、「若い人はすぐ休む、海外旅行に行くので10日休ませてくださいとポンと届けが出てくるからびっくりする」というような話もある。若い人たちは自分の生活と仕事とのバランスをうまくとり、そういう意識に変わっているのだと思う。コミュニティでお話を伺うと世代交代が進まないというのが問題のようである。若い世代の人が意見を言うと、コミュニティの運営もいい感じにまわっていく気がした。若い人にどんどんSNSで発信していくというのは非常に有効だと思う。ただ、市役所に来ていただける方々の意識が変わらないと地域が変わらないという現実もある。今地域</p>
--	--	---

		<p>を動かしている、リタイアして地域のために一生懸命働こうとしている従来型の社会構造や社会慣行にとらわれている世代が、やっぱりまちを動かしている。その世代と若い人たちの間にすごいギャップがある。企業では、実態は変わりつつある、というか、変わらなくてはいけない状況になっている。そのような現状が今回ヒアリングさせていただいて初めて見えてきたような気がする。問題点は、我々が机上で思っていることとは違うところにあった。ぜひそれを生かして、若い人に伝わる手段と中高年に伝わる手段を考えていかなければいけないと思う。</p>
	佐藤委員	<p>私は今回のヒアリングを通して、中高年世代がずいぶん変わった感じがする。もう一つ言うと構造的な問題とされていることについて、もう少し意識して進めていったらいいと思う。</p>
	岡本会長	<p>介護で大変な目にあっている中高年は、男女共同参画などといっていられない状態だと思う。そういう意味で伝えたいところに伝わっていないという点では、やっぱり伝え方がよくないと感じた。これまでどおりの市役所のアピールの仕方ではなく、もう少し工夫が必要である。</p> <p>時間がきているので、次期プラン策定のためのワーキンググループ会議についての報告をお願いしたい。</p>
	事務局（谷本）	<p>資料6に基づいて説明。</p>
	岡本会長	<p>ヒアリングに行かれた方に一言ずつ感想をお願いしたい。</p>
	十河委員	<p>だいたい大きい企業は、親会社の作ったいろいろなルールがそのまま使われているので、体制はできている。しかし実際には、例えば男女を均等に雇いたいけれども女性の希望者がいない。いくら男女平等にしようと思っても、もともとの土壌で50%50%になるものなのか、そもそも女性の希望が少なくてもいくらがんでも20%くらいなのか、次期プランを作るときに目標数値をもし決めるのであれば、その企業の状況をよく見ないといけないと感じた。机上の空論だけで目標数値を決められない。もっとよく調べてからここまでならできるという根拠を持った上で目標数値を設定しないといけないと感じた。</p>
	佐藤委員	<p>だいぶ男女共同参画に対する意識も女性活躍についての考え方も変わってきたように感じるが、もう少しスピードアップして進めたい。何を触媒にするかはこれから話していかなければいけないが、「女性の希望者がいないのだから男女半々と言われても困る」「昇進したいと女性は思っ</p>

		<p>ていないから半分にならないのは当たり前だ」ということもあろうかと思うが、やはり構造的な問題だと思う。もう少し土台から変えていかないと、男女半々にはならない。例えばある仕事になぜ女性たちが希望しないのかを考えてみると、また別のことも分かるのではないかと思う。一つひとつの事業に何か要求してもどうにもならないということも分かり、非常に勉強になった。</p> <p>日高委員</p> <p>DV 対策ネットワーク会議では、非常に多くの部署の関係者が集まっただんばっていると感じたが、もっと効果的にやってほしいと思った。それぞれが一生懸命やっているが、解決までの道筋が見えてこなかったのが残念である。もう一つ踏み込んでそれを解決してほしいと感じた。もう一つ感じたことは、女性職員の出席が多かったが、女性職員は、やっぱりコミュニケーション能力が高く、横つなぎの話になると非常に有効だと思った。そういう長所を活かしていただきたい。事業所に対するヒアリングでは、やっぱりトップの考え方が非常に大事だと感じた。思っけていてもなかなか実現できないという現実も見えてきた。そして私たちが訪問したことで努力しないといけないという意識啓発にもなったという点では、非常にいいヒアリングだったと思う。</p> <p>松岡委員</p> <p>私はコミュニティでのヒアリングに2カ所参加した。コミュニティについては、男女で協力してやらないと前に進まないの、どこも男女協力してやっているが、やっぱり中身を見てみると福祉関係や防災訓練の炊き出しでは、男女の分担が偏っていると感じた。急には難しいけれども男女共同参画にしていかなければならないという意識は高まっていると感じた。また意見交換する中で、男女共同参画プランについて知ってもらえたので、そういう面では効果があったのではないかと思う。</p> <p>中島委員</p> <p>事業所に対するヒアリングを1カ所と川西コミュニティでのヒアリング、DV 対策ネットワーク会議に参加した。結局、最前線では女性が活躍している。けれどもその組織の代表というときには、ほとんどが男性で占められている。女性が持っている力が活かされているかということ、まだまだであると感じた。</p> <p>私はお互いの幸せのために、男女共同参画を進めたいと思っけてはいるが、自分の家庭ですらできていないという現実も感じている。実際、世の中もそうだと、今回のヒアリングで改めて感じた。そうは言いながらも、20年前よりはたしかに少し意識は上がっけてきているし、娘たちの世代ではかなり変わっけてきているというのは感じる。私たちより上の世代にどうやって理解を深めてもらい、実際にそれを実践してもらっかは、</p>
--	--	---

		<p>大きな課題だと感じた。</p> <p>岡本会長 今回のヒアリングだけでなく、第2次プランのことも含め、今日まだご発言いただいている方に意見をお願いしたい。</p> <p>三村委員 企業に協力していただければできないということがたくさんあると思う。例えば「企業の男性に育児休業を取ってもらいましょう」という意見が企業に伝わらない限りはなかなか浸透していかない。そういうことも、視野に入れながら進めていったらいいのではないかなと思う。</p> <p>溝渕委員 男女共同参画というのは、多岐にわたっていて、商工会議所に入っている企業にも大小いろいろあるから、一律にはできないと思う。せめてそれぞれの人が自分らしく生きられるように進めてほしい。「まず市役所から」ということでこの現行プランをつくったが、市役所の中で本当に女性が働きやすい環境になっているのか。仕事と家庭を両立できないから管理職になりたくないと感じる女性が多い。一人に仕事集中しないように、仕事をカバーし協力し合えるような柔軟な働き方ができる体制を日頃から作ってほしい。ワーク・ライフ・バランスができないと何もできないと思う。後はよりよい人間関係を職場でも地域でもつくってほしい。人と人とのつながりが豊かになっていくような次期プランをつくっていかねばいけないと思う。</p> <p>福岡委員 私も合併前から、男女共同参画、ジェンダーに関する会に所属して、合併してからもずっと一緒に勉強させていただいた。その頃から比べると今の若い男性たちが子育てに携わっている姿は、まちを歩いていてもよく分かる。そして今、老老介護と言うけれども、夫が妻を連れて買い物に行っているのをよく見かける。男性が女性の介護をしているということが数字ではなく、現実に分かると思う。 栗熊コミュニティでは、自治会長の名前を書いてもらうときに「次の自治会長はどなたかですか、世帯主を書いてください」というような申込書だった。申込書に「次の自治会長には会によく出られる方のお名前を書いてください」と書いたら違ってくると思う。</p> <p>杉尾委員 かがわ男女共同参画推進員をしているけれども、丸亀商工会議所からの推薦で来ている。民間企業というのはボランティアでなく、利益を上げないといけないところであるが、人出不足が見込まれるので、働きやすい職場というのを意識していかなければならない。それが結果として得になるということを身を持って感じなければいけないと思った。もう</p>
--	--	---

		<p>1つは例えば女性の育休で、元の職場に戻って前と同じように活躍するというのは、小さい会社ではなかなか難しい。やっぱり大企業だからできるというところもある。会社の大小とか個別の事情もあるので、いろいろ考えながら対応しなければいけない。私自身、4年間、審議会委員をさせてもらったが、やはり男性の意識改革が一番大事である。男性の意識改革ができれば変わっていくのではないかと思う。</p> <p>丸亀でも兄弟で同じ保育園に入所させられるかどうかを本当に心配しているという話を聞いた。やはり若いお母さんは働いている人が多い。10年前と比べて大きく変わってきている。幼稚園のお母さんでも3時間でもあったらパートで働きたいと言う。若いお母さんたちが働きやすい環境を男女共同参画の中でも考えていってほしいと思う。今の若いお父さんたちはわりと協力的になっていて、たくさん家事・育児に参加してくれ、意識は変わってきている。でも私の夫世代は、家事はやはり女性がしないといけないという考えがある。男女平等というのも頭におきつつ、女の人には女の人の特長、男の人には男の人の特長で、男女がそれぞれの得意分野を分担するのはいいと思う。</p> <p>最近のニュースでは、中学の校長先生が「女性にとって最も大切なことは子どもを2人以上産むこと。仕事でキャリアを積む以上に価値がある。子育てをした後に大学で学ばばよい」と発言したことが一番ショックだった。現実的に自治会やコミュニティの活動を考えると、女性の協力なしには成り立っていかない。現実には男性自身が困ることなのに男性が男女共同参画をもう一つ受け入れられていないことが問題だと思う。私はそういうことをコミュニティ活動から発信できたらいいと思っている。</p> <p>一番大切なことは、意識改革だと思う。いろいろな取り組みをしようとする前段に、今の時代はなぜ男女共同参画が必要であるかということを理解できるような取り組みが必要である。私もコミュニティの生涯学習やクラブ活動などいろいろな機会に、時代は変わってきているという啓発をしている。さきほど言われていたように、若い人は意識も変わってきているので自然な形で受けとめられると思うが、私の世代ではこれまでの意識がずいぶん残っているので、中高年への啓発をもっと取り組んでいったらいいと思う。</p> <p>若い男性は、子育てはするが、食事の用意とか掃除などの家事を積極的に手伝っているという人はなかなかいないと思う。少しずつ意識は変</p>
	中野委員	
	遠城委員	
	三好委員	
	岡本会長	

		<p>わってきているから、何か少し刺激を与えたら一気に変わると私は思っている。プランの形態としては、市民というより、市役所の各課の行動計画であるので、どうすれば自分の仕事に男女共同参画の視点を持って取り組んでもらえるかを考え、少しずつ取り入れていかないといけないと思った。</p> <p>他にないようなので、本日の会議はここまでとする。次回の会議の開催は、次期プラン策定のワーキンググループから次期プランの施策や重点施策が出された段階で、時期は7月もしくは8月の予定である。本日は感謝申し上げます。</p> <p>— 閉会 午後8時30分 —</p>
--	--	---